

日頃からの備え

急傾斜地崩壊防止施設があっても
大雨の時には... **絶対に安全というわけではありません**

○気象情報や災害関連の情報に注意し、
危険を感じたらすぐに安全な場所に
避難しましょう。



○避難出来ない場合でも、万一のかけ崩れ
に備えて家屋の2階以上、もしくはかけ
の反対側の部屋へ移動しましょう。

○長時間にわたって雨が降っている場合は、
土壌に多くの水が含まれ、かけ崩れが発生
する危険性が極めて高くなるので注意が
必要です。

家の中でも1階より**2階**、
崖の反対側が安心です



○かけ崩れは雨が止んでから
発生することもあります。

かけ崩れで土砂が流入した住宅の例



**早めの行動をとり、
自分の身は
自分で守ろう！**



県PRキャラクターかながわキンタロウ

気象情報、災害関連情報について情報収集をしましょう！

神奈川県土砂災害情報ポータル

検索

令和3年1月25日作成

工事終了後の 急傾斜地崩壊防止施設について ～安全に暮らしていただくために～



急傾斜地崩壊防止工事は・・・

急傾斜地の保全や崩壊防止工事は、**土地の所有者等が自ら行うのが原則**ですが、
施工には**多大な費用**と**高度な技術力**を必要とします。

神奈川県では、土地の所有者等からの要望を受けて一定の要件を満たす危険度の
高い区域を『急傾斜地崩壊危険区域』に指定し、**土地の所有者等に代わり**急傾斜地崩
壊防止施設（以下、「施設」という。）の設置工事を実施しています。このリーフレット
は、工事終了後の注意点について、ご紹介しています。

お問い合わせ先

神奈川県 横浜川崎治水事務所（所在地：横浜市西区岡野2-12-20）

急傾斜地崩壊危険区域の

指定要望（未指定箇所）などについては、

急傾斜地第一課（☎045-411-2520）

すでに指定済みの箇所については、

急傾斜地第二課（☎045-411-2522）

区域内での行為の許可申請については、

許認可指導課（☎045-411-2508）

神奈川県が設置した急傾斜地崩壊防止施設について

安全性について

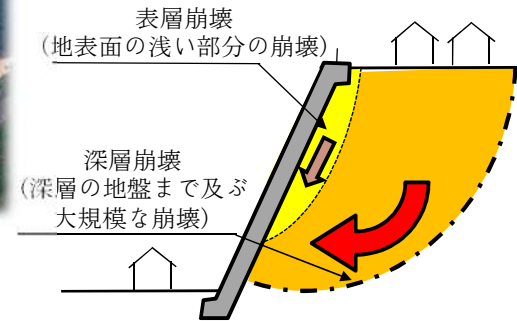
県が設置する施設では主にコンクリート張工や法枠工が用いられています。

これらの工法は、発生頻度の高い「表層崩壊」から人命を守るためのものです。

しかし、**大規模地震や長期間に渡る降雨等により発生することがある「深層崩壊」までを対象にしたものではありません。**



施設があっても**絶対に安全**というわけではありません！
まず**身の安全確保**を！



県が行う維持管理

○設置後は、施設のみ県が維持管理を行います。施設は経年変化によって劣化したり破損するおそれがあるので、定期的な点検や状況により補修工事が必要になります。この作業スペース確保のため、工作物等を設置する場合は**施設から水平距離で1m以上の隔離をとってください。**

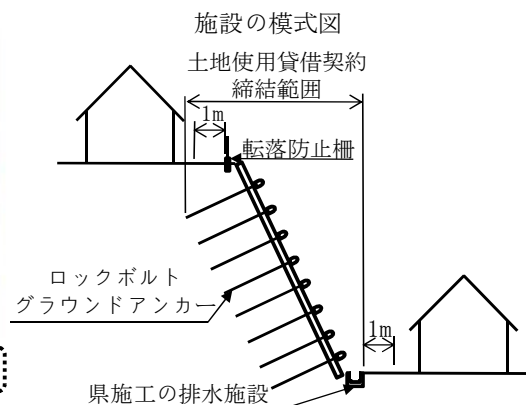
○急傾斜地崩壊危険区域内で木を伐採したり、掘削・盛土等をする際には県への**許可申請が必要**です。

○施設を設置した土地については、下図のように、ロックボルト等の地中に埋設された構造物も含めた範囲について、土地の所有者と県が**土地使用貸借契約**を結びますが、その土地を譲渡する場合は、**本契約を必ず継承してください。**

隔離を確保していないと...



点検作業・補修工事が出来ません！



皆様が行う維持管理

○木の管理・草刈・側溝等の排水施設の清掃など日常の維持管理は、**土地の所有者や地元の皆様が実施してください。**県では行いません。

○工事で設置した排水施設は、その多くが宅内ますに接続しています。宅内ますの工事を行う場合には、必ず流末を確保して下さい。許可なく接続を切られた場合、**県では工事いたしません。**

適切に木の管理を行わないと...



台風等で倒れて皆様に被害を及ぼすおそれがあります。

排水施設の清掃をしていないと...



水があふれて皆様の家に浸水することもあります。

適切な維持管理をお願いします！



急傾斜地崩壊防止工事に用いられる主な工法

急傾斜地崩壊防止工事には、主に2種類の工法があります。

●コンクリート張工

地盤が岩盤の場合に、崖が風化して崩れやすくなるのを防ぐために施工される工法で、傾斜が急な斜面に適しています。厚さが50cm程度のコンクリート構造物です。



●吹付法枠工

表面の土が軟らかい場合や、傾斜が比較的緩やかな場合に施工される工法で、格子枠の太さが20cm程度の構造物です。



グラウンドアンカー・ロックボルト

がけ崩れを防ぐために、地中に設置するものです。現地の地形・地質によって法枠工などと併用される事があります。主に、軟らかい層が厚い場合はグラウンドアンカー、薄い場合はロックボルトが用いられます。

●グラウンドアンカー

斜面に穴をあけ、PC鋼線を束ねて被覆したアンカーを挿入し、先端部分を硬い層に固定することで斜面をおさえ、がけ崩れを防止します。

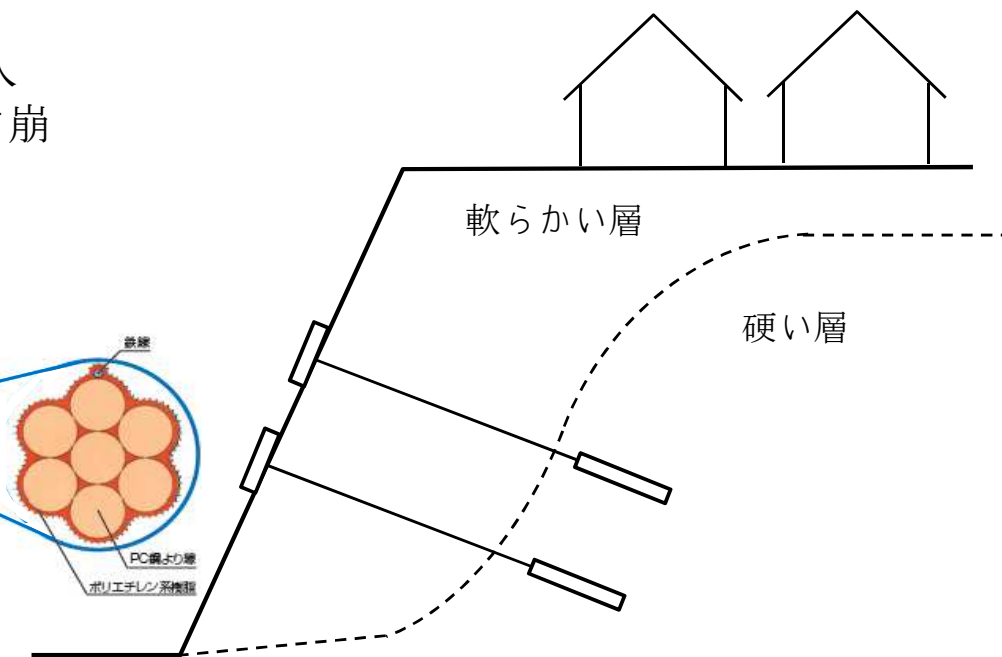
通常、長さは7m以上です。



グラウンドアンカー



細いPC鋼より線を束ねて一本にしてあります。鋼線の太さが2cm前後のものを用いる事が多いです。



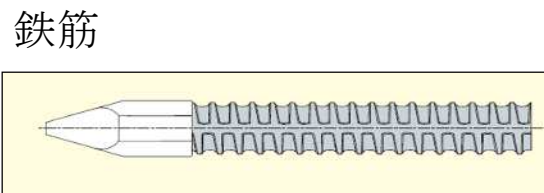
●ロックボルト

斜面に穴をあけ鉄筋を挿入し、モルタル等を用いて全体を固定することで斜面をおさえ、がけ崩れを防止します。

通常、長さは7m未満です。



ロックボルト



太さは2cm前後のものを用いる事が多いです。

